

## 垂水 「垂水の会」資料2010年4月4日（日）

### 垂水は・・・

垂水は、現在は神戸市垂水区であるが、1941年（昭和16年）に神戸市に編入（当時は、神戸市須磨区垂水町）されるまでは、**播磨の国・明石郡垂水郷**であった。

### 垂水の簡単な沿革

明治初期までは、明石郡・東垂水村と西垂水村が、海神社（ほぼJR垂水駅）を境に東西の2つの村があった。（旧村）

江戸期初期	播磨国として、 <b>姫路城主</b> が領主でお殿様
江戸中期以降	<b>明石城主</b> が領主でお殿様
明治4年7月	廃藩置県で <b>明石県</b>
明治4年11月	明石県が姫路県に編入され、 <b>姫路県</b> （11月2日）
〃	1週間後に飾磨県に改称、 <b>飾磨県</b> （11月9日）
明治9年8月	飾磨県は兵庫県に合併、 <b>兵庫県</b>
明治22年	市制町村制によって、垂水村が誕生 <b>明石郡垂水村</b> （ほぼ現在の垂水区）
昭和3年	町制を施行し、 <b>明石郡垂水町</b>
昭和16年	神戸市に合併、 <b>神戸市須磨区垂水町</b>
昭和21年	須磨区から独立して <b>神戸市垂水区</b>
昭和22年	明石郡伊川谷・櫛谷・押部谷・玉津・平野・神出・岩岡の各村を編入 これらは、ほぼ現在の神戸市西区で、昭和57年に分離して西区へ。



図1 垂水近隣の地図（Googleより）

## 垂水の概要

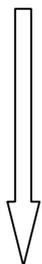
垂水の町は、**東は垂水川**(現在の福田川)、**西は天神川**(商大筋沿い、現在は暗渠)、**北は高丸陸**[たかまるくが](高丸、星陵台、霞ヶ丘...垂水の町の北に広がる丘陵地全体)、**南は山陽道**(現・国道2号線)と海岸線(明石海峡)に囲まれた町。  
**町の中心は漁港と海神社**で、海神社を境に旧村の西垂水村と東垂水村に分かれていた。

・摂津と播磨との国境(須磨と塩屋の間)には鉢伏山の稜線が海岸線まで伸び、旧山陽道は、鉢伏山の北を迂回して、多井畑、転法輪寺、名谷を経て垂水に至る脇街道があった。この街道跡は、現在の県道200号(垂水停車場線)、垂水駅構内、郵便局の脇を通過して、洞養寺(旧西垂水小学校)、カトリック教会の横を通過して瑞丘八幡神社の前の旧バス道に至る。

### 明治から昭和、明石郡から神戸市へ

#### 明治期

・山陽鉄道が明治22年に開通して、神戸・大阪からの観光客が舞子の海岸に日帰りで観光に来るようになり、舞子の浜には料理旅館が並んでいた。



・神戸の外国人居留地の外国人商人等が、塩屋から東垂水の高台に別荘を建てて外国人の別荘地が出来た。開発者の名からジェームス山と呼ばれている。

・郊外型の住宅地が垂水新田に出来たり、川崎造船、三菱重工、神戸製鋼の社宅が垂水の町に建設されたりして、人口が増加。

#### 昭和初期

・神戸高等商業学校(商大、現・県立大学)を垂水村に誘致、人口増加で神戸から水道をもらうことになり、垂水村は神戸市のベッドタウン化、神戸市への依存が高くなり、神戸市への編入の動きが大きくなった。

## 垂水のみどころ

- ・海神社 . . . 綿津見神社
- ・垂水商店街 . . .
- ・古い街並み . . . 天の下、陸ノ町、神田町(垂水商店街の北に面影が残る)
- ・旧街道 . . . 山陽道から転法輪寺に至る参道でもあった。(上記参照)
- ・垂水漁港 . . . 現在の神戸市内の漁業の拠点(昼網、海苔養殖、イカナゴ漁)
- ・五色塚古墳 . . . 次ページ参照

## 昔の垂水

垂水は、大和・飛鳥から西国、四国、九州、朝鮮、中国への海路の要所明石海峡を望む位置にあり、垂水の西の丘の上にある**五色塚古墳**は海を支配する豪族の墓とも言われている。

**我が家はこの近く**



図2 五色塚古墳、明石海峡、淡路島

## 海神社(垂水駅の南)の歴史

社伝によれば、神功皇后の三韓征伐からの帰途、当地の海上で暴風雨が起って船が進めなくなったので、皇后が綿津見三神を祀ると暴風雨が治まった。そこでこの地に綿津見三神を祀る社殿を建てたのが当社の始まりという。大同元年(806年)の『新抄格勅符抄』にある播磨明石垂水神に神封戸十戸を寄進するという記述がある。  
Wikipedia より



図3 海神社

**源氏物語**の12帖「須磨」、13帖「明石」の舞台が、図1の地図の近辺になる。

ただ、現在の明石の町は、1617年(元和3年)に信州・松本より明石に転封になった小笠原忠真が2代将軍徳川秀忠の命によって築城し、その時に町割り(宮本武蔵が町割りをしたとされている。)をして明石川左岸にできた町である。その前は、明石川右岸にあった船上城と現在の林崎が城下町であり、船上城は豊臣秀吉(当時は羽柴秀吉)より播磨国明石郡に6万石の領地を拝領した**キリシタン大名の高山右近**が、1586年(天正14年)に築城して城下町をつくった。それ以前の明石は山陽道沿いの、ちょっと内陸となる。(枝吉城や吉田遺跡のあたり、さらに遡れば、櫛谷、菅野ともっと内陸)

源氏物語の明石は、現在の明石の町ではなくて、垂水辺りかも...

舞子(JR神戸線の垂水駅の西隣)は、山田村を流れる山田川河口の山田の浦のことで、**1180年に神戸の福原に遷都した平清盛**が、この山田の浦に別荘を建て、中国の船を見張りながら京都の舞妓に舞をまわせる宴会を何度も開いたことから舞子と呼ぶようになったと言われている。

1659年明石城主になった**日向守松平信之**は20年にわたる治政の間、民事に勤め垂水の霞ヶ丘の雑木林台地も、この日向守松平信之の藩財政の援助で開発し、「垂水新田」と呼ばれた。**我が家は、五色塚古墳の北、霞ヶ丘で、この垂水新田になる。**

日向守松平信之は、その後大和国・郡山へ転封となり、幕府の老中となって1万石加増で総国・古河に転封となり、古河で死去するが、その死を聞いた垂水新田の民人が供養碑を建てて名君を偲んだ。現在の垂水区役所や垂水小学校は住所が**垂水区日向**となっているが、これは松平信之の日向守にちなんだ地名である。

**有栖川宮**(ありすがわのみや)の9代**熾仁**(たるひと)は皇女・和宮の婚約者だった人で明治維新以後は陸軍軍人として活躍し、戊辰戦争に際して東征軍大総督を務め、1877年(明治10年)の西南戦争で征討総督となり、1894年(明治27年)の日清戦争では参謀総長を務めた。明治28年に舞子別邸にて死去。この有栖川宮別邸が現在の舞子ビラである。

官軍の軍歌であるトコトンヤレ節(品川弥二郎の作詞とされ、「**宮さん宮さん**」との別名もある)の「宮さん宮さん お馬の前で ひらひらするのは なんじゃいな」と歌詞の中で言われている「宮さん」とは、熾仁親王のことである。

### 垂水にちなんだ話

平磯灯台は明石海峡の難所、平磯暗礁に1893年に建てられた国産セメント第一号(小野田セメント)で建造された鉄筋コンクリート製の灯台。文豪**ウィリアム・サマセット・モーム**の短編小説「コスモポリタン」に収録されている「困ったときの友」は福田川、平磯灯台を舞台にした殺人事件。

垂水小学校は、昭和26年4月、**日本一のマンモス校**となった。  
児童数4300人、クラス数76、教員数110人、教室不足で2部授業

作家の**筒井康隆**が住んでいたことがあり、小説には、垂水の街を思わせる光景が描かれている。  
**井上堯之**(ザ・スパイダース、PYG, 井上堯之バンド)の実家がある。(東垂水)